

博報堂教育財団／教職育成奨学金制度
活動紹介

2021年9月

公益財団法人 **博報堂教育財団**

Hakuhodo Foundation

【制度の趣旨】

- ・ 児童教育、国語教育の教員を目指す学生を対象とした奨学金給付制度。
- ・ 児童教育を支える未来の優秀な教育指導者の育成に貢献する。
- ・ 全国に広がる奨学生及び卒業生の輪が、教育現場での<学びあい、支え合いのネットワーク>となり、教育の質の向上や教育現場の活性化に寄与することを目指す。

【制度の特徴】

- ① 教職志望者に対象を絞った完全給付型奨学金
- ② 学費をほぼ全額カバーする奨学金を給付することで、学業及び優れた教員になるために必要な活動に専念できる環境を提供する。
- ③ 児童教育財団としてのノウハウやファシリティを活用し、特色ある研修プログラムを提供する。
- ④ 海外短期留学支援による、海外での経験を積む機会を提供する
- ⑤ 奨学生及び卒業生の交流を促進し、全国の教育現場での<学びあい、支え合いのネットワーク>形成を目指す。

【奨学金給付対象者】

- ・ 推薦依頼大学から、以下の教員を目指す学生の推薦を受け、選考委員会による選考により採用者を決定する。
 - ① 小学校教員
 - ② 特別支援学校教員
 - ③ 中学校・高等学校の国語科教員

< 2020年度推薦依頼大学（59大学） >

愛知教育大学／愛知淑徳大学／愛媛大学／茨城大学／宇都宮大学／大分大学／大阪大谷大学
大阪教育大学／岡山大学／香川大学／鹿児島大学／鎌倉女子大学／関西大学／関西学院大学
京都教育大学／岐阜聖徳学園大学／岐阜大学／熊本大学／群馬大学／慶応義塾大学／神戸大学
國學院大學／埼玉大学／静岡大学／淑徳大学／上越教育大学／信州大学／玉川大学／千葉大学
筑波大学／都留文科大学／帝京大学／東京学芸大学／東北福祉大学／東洋大学／同志社大学
長崎大学／奈良教育大学／鳴門教育大学／日本大学／兵庫教育大学／広島大学／福井大学
福岡教育大学／福島大学／佛教大学／文教大学／北海道教育大学／三重大学／宮城教育大学
宮崎大学／武庫川女子大学／明治大学／明星大学／山形大学／横浜国立大学／立命館大学
和歌山大学／早稲田大学

【奨学金給付内容】

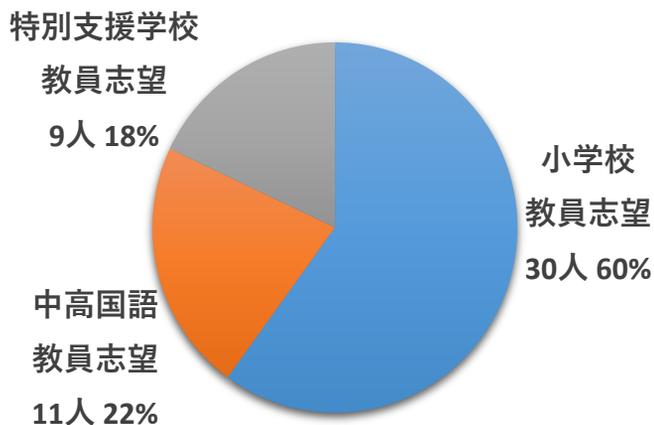
- ・ 授業料相当額
大学生（国立）：年額60万円（月額5万円）
大学生（私立）：年額120万円（月額10万円）
大学院生：年額60万円（月額5万円）
- ・ 自宅外生への特別支援費：年額60万円（月額5万円）

【海外短期留学支援制度】

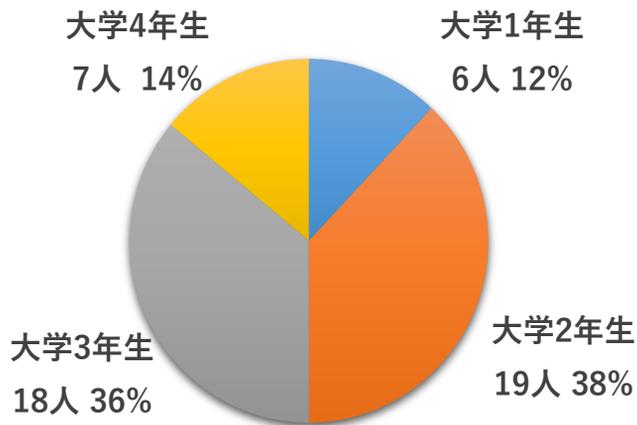
- ・ 優れた教員になるための経験として役立つと思われる海外短期留学や海外研修等については、本人の申請と大学の推薦により支援する。
 - ・ 渡航費（アジア地域5万円、その他地域10万円）
 - ・ 留学・活動費（5万円／月）

■ 2021年度新入奨学生（第四期生／50名）の内訳

志望校種別

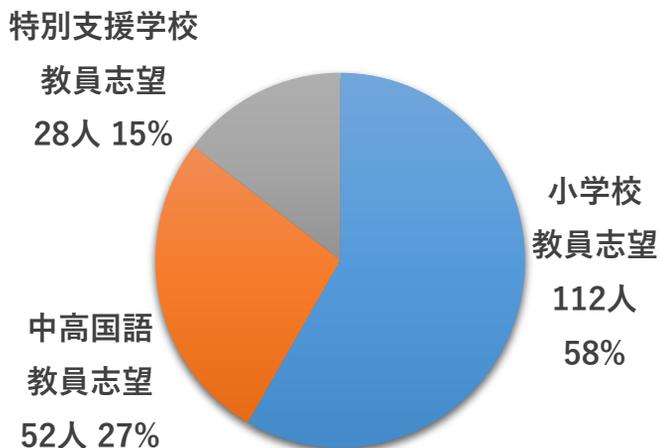


学年別

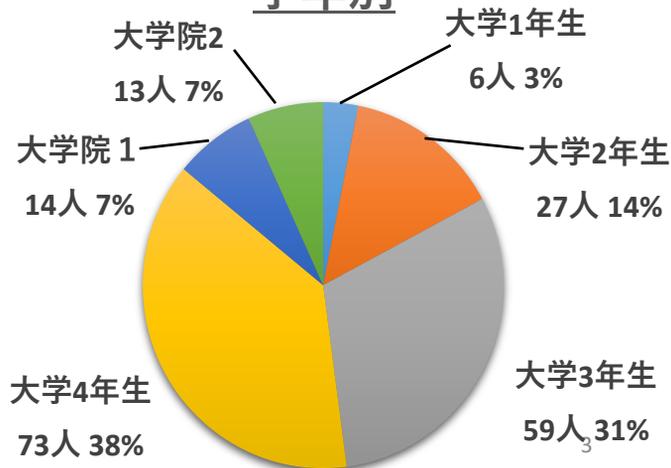


■ 2021年度在籍奨学生（第一期～三期生 + 第四期生／192名）の内訳

志望校種別



学年別



<新入奨学生ワークショップ>

【実施】2020年10月31日、11月7日／オンライン開催

新入奨学生79名中、75名参加

【目的】1) 奨学生間の交流の促進

・「教員になる」という同じ志を持ちながらも、地域、大学、年次、校種志望の違う多様な奨学生同士での交流を促し、教育現場に出た後にも支えあえるネットワークに育てていく。

2) 弊財団ならではの学びの場の提供

・大学教育とは違う視点での「学び」のきっかけづくり。
 ・普段接する機会の少ない「多様な分野の人や考え方」に触れることで考え方を広げ、成長のきっかけに。

【実施プログラム】

「なりたい教師のあり方とは？ チームを作ろう！」

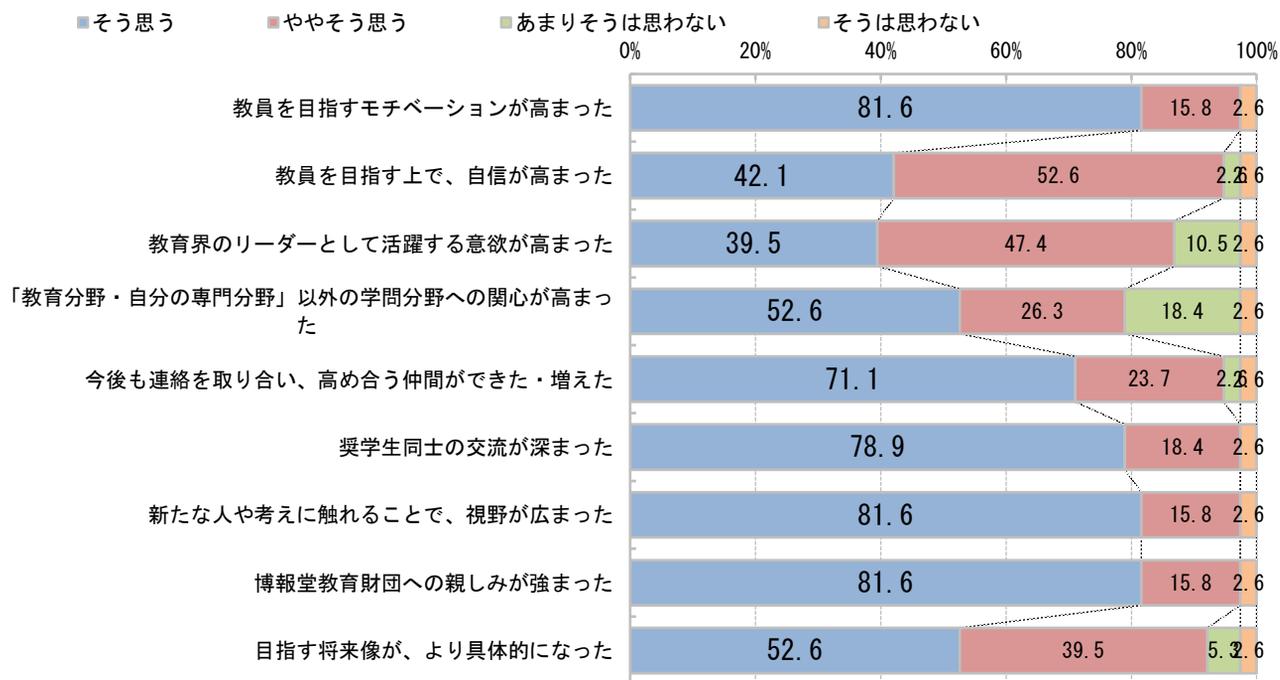
2020/10/31、11/7

講師：一般社団法人 こたえのない学校 藤原 さと氏、木村 彰宏氏

開始時間	活動	詳細	目安
9:30	奨学生アクセス開始	・アクセスが不安な学生に操作説明 (9:30~40)	
10:00	1) イントロダクション	・財団挨拶 ・常務理事挨拶 ・財団から趣旨説明 ・講師自己紹介	15分
10:15	2) アイスブレイク	「チャットを使って交流してみましょう」 ✓ 今日はどこから参加されていますか？ ✓ オススメのご当地グルメはなんですか？ ✓ 「理想の教育」とはどんな教育ですか？ 「ブレイクアウトルームを使って交流してみましょう」 ✓ 共通点探し！	30分
10:40	3) 「知り合う」の時間 お互いを知る話し合い 前半	「自己紹介シート」を使いながら①	15分
		「自己紹介シート」を使いながら②	15分
お昼			
13:00	3) 「知り合う」の時間 お互いを知る話し合い 後半	こんな時、どうする？	
		教育や子供に関わる上で大事にしたい思い③	15分
		教育や子供に関わる上で大事にしたい思い④	15分
休憩			
13:45	4) 「まなび」の時間	✓ 教師ってなに？ ✓ 探求ってなに？ ✓ なぜ、振り返る事が大切なのか	30分
14:55	5) チーム ディスカッション ・目標の言語化 ・目標のシェア	✓ 今日一日で、自分の教師像に変化はありましたか？ ✓ これからさらに教師像が明確になりそうですか？ ✓ これから半年間具体的にどのようなことが出来そうですか？	20分
		個人で自分の目標を言語化	10分
		チームで目標をシェア	10分
		学びの定着	15分
15:55	締め	財団挨拶	5分

【研修後の奨学生アンケート結果】

■あなたは、研修を受講して、以下のような感想を持ったり、意識変化がありましたか。



【研修で得た成果】

< 仲間に会えた、繋がりができた >

教育について自分なりに理想や考えを持っている人々に会い、ひとりではないと思えたこと

【小学校/1・2年次/女性】

普段関わることがなかなかできない遠くの大学の人と関わり、その共通点が教育であるということで、自分の新たなホームを作ることができるということ

【小学校/3・4年次/女性】

教師という夢を共有する仲間を得られたこと

【特別支援/1・2年次/女性】

私自身、まだ大学に2回しか行ったことがないため自分の大学の先輩との交流がありません。その中で、他大学の学年が上の方々と教育について語り、目標を共有できたことはとても大きな成果でした。

【特別支援/1・2年次/女性】

< 多様な考えに触れることができた >

自分の目指す教師像と逆の意見を持つ人に出会えたことで、いい意味で自分の理想像が崩れたこと。凝り固まった考え方の脱却のきっかけになった。

【小学校/1・2年次/男性】

ひとつの事例に対してたくさんの考え方・対応があるということ。

【小学校/1・2年次/女性】

教員を目指す仲間が抱く教育観が非常に幅広く多様であることを知れたこと。

【中・高国語科/3・4年次/男性】

中高の教員と小学校の教員とはわかりあえないこと。

【中・高国語科/3・4年次/男性】

< 目標・自分の教育観・理想の教師像の明確化 >

自分の教員になりたいという気持ちや考え方を明確にできたことです。【小学校/1・2年次/女性】

様々な意見を聞くことや自分の意見を言語化し伝えることを通して自分の教育観や理想とする教師像が明確になったと実感できました。

【小学校/1・2年次/女性】

【研修での奨学生の様子】



【実施】2021年3月7日、10日、15日、17日／オンライン開催

奨学生186名、OBOG3名参加（5日間通じて）

【目的】1) 奨学生、卒業生の多様な交流を生み出すこと

「教員になる」という志をひとつに、地域や大学、年次が異なる多様な奨学生同士が、交流を通じ、学び合う。

将来的には、教育現場に出た後も、支えあえるネットワークに。

2) 博報堂教育財団ならではの学びの場を提供すること

大学教育とは違う視点での「学び」のきっかけづくり。

普段、接する機会の少ない「多様な分野の人や考え方」に触れることで、考え方を広げ、成長のきっかけに。

【実施プログラム】

①

3月7日(日)

10：00～全体交流(181)

趣旨説明
校種別交流
OBOG会紹介

12：00～休憩

13：00～講座(同時開催)

講座A-1(47)

「インクルーシブな
教育実践を考える」
講師：横浜国立大学教授
泉 真由子氏

講座B-1(41)

「体験を通して学ぶ
子供の貧困」
講師：特定非営利活動法人
Learning for All
石神 駿一氏

講座C-1(47)

「ファシリテーションを
学ぼう」
講師：(株)博報堂
岡田 庄生氏

講座D-1(46)

「絵が苦手な方のための、
伝わるラフスケッチ描き
方教室」
講師：(株)博報堂
遠藤 玲奈氏

17：00～クロージング

卒業生紹介
財団挨拶

②

3月10日(水)

13：00～16：00頃

講座C-2(45)

「ファシリテーショ
ンを学ぼう」
講師：岡田 庄生氏

講座D-2(43)

「絵が苦手な方のた
めの、伝わるラフス
ケッチ描き方教室」
講師：遠藤 玲奈氏

3月15日(月)

13：00～16：00頃

講座A-2(48)

「インクルーシブな
教育実践を考える」
講師：泉 真由子氏

講座B-2(43)

「体験を通して学ぶ
子供の貧困」
講師：石神 駿一氏

③

3月17日(水)

13：00～16：00

特別講座(138)

「LGBTを知る
～性同一性と
性的指向の多様性～」
講師：(株)LGBT
総合研究所
森永 貢彦

③2期生・3期生対象講座
1期生は一度受講済みの
講座なので、自由参加

①から1講座を選択

②ここから更に1講座を選択

※講座横の(数字)は参加人数
になります。

【講座と講師の先生の紹介資料】

3月7日(日) / 15日(月) 13時~16時
「インクルーシブな教育実践を考える」 記号 A

<プログラム概要>

学校現場における「インクルーシブ教育」の推進がクローズアップされています。しかし、実際に学校現場でインクルーシブな教育を実践することは簡単なことではありません。それはなぜか？そもそも実現できるのか？レクチャーと共に現役高校生等の当事者との対話、インクルーシブな教育実践の失敗例・成功例などを紹介を通して、「実現可能なインクルーシブ教育のあり方」を受講者と一緒に考えていきます。

<講師>



泉 真由子

横浜国立大学 教育学部
教職大学院教授

専門は特別支援教育、発達臨床心理学。「発達の問題や心身の慢性疾患のある子どもの社会適応」、「障害理解・インクルーシブ教育」が主な研究分野。人文科学博士（お茶の水女子大学）。著書に『小児がん患児の心理的問題』（風間書房）、「標準病弱児の教育テキスト」（ジヤース教育新社）など。日本育療学会理事、日本発達障害学会常任編集委員、日本特殊教育学会編集委員なども務めている。

3月7日(日) / 15日(月) 13時~16時
「体験を通して学ぶ子どもの貧困」 記号 B

<プログラム概要>

本ワークショップでは、近年話題になっている「子どもの貧困」を取り上げます。具体的にはLearning for Allが支援をしている子どもの具体的な事例に触れながら、どのように課題解決に取り組むべきかを考えるワークショップを行います。実際にLearning for Allで行っている支援についても共有させて頂くことで、より理解が深まるようなプログラムをご用意しております。「子どもの貧困」がどのような難しさや複雑さを伴う問題であるのか、そして教師としてどのような関係機関と連携して子どもたちに向き合うことができるのかを一緒に考えていきましょう。

<講師>



石神駿一

(いしがみ しゅんいち)

特定非営利活動法人
Learning for All
コミュニティ推進事業部
事業部長

静岡県出身。34歳。新卒で電通に入社し、4年半勤務。屋外広告のメディア販売やメディア開発、企業のブランディング・ロゴ開発などに従事。2014年に電通を退社してLearning for Allに関わるように。2015年よりLearning for Allの職員として広報・資金調達・コミュニティ開発の責任者を担う。子どもの貧困の解決にコミットすることが「当たり前」になる世の中を作りたい。

3月7日(日) / 10日(水) 13時~16時
「ファシリテーションを学ぼう」 記号 C

<プログラム概要>

話し合いが上手く進まない。せっかく集まったのに、良いアイデアが出て来なかった。そんな経験はありませんか？実は、博報堂はアイデアをチームの議論から生み出す「チームクリエイティブ」という考え方があります。一人一人の意見や思いを引き出して、効率的にアイデアを生み出す技術、それが「ファシリテーション」です。教育現場はもちろん、色々な場面で使えるスキルです。

<講師>



岡田 庄生

株式会社博報堂
ファシリテーター

国際基督教大学卒業後、2004年、株式会社博報堂入社。PR局を経て、現在、ブランドや事業の革新プロジェクトを支援する博報堂ブランド・イノベーションデザインに所属。企業のプロジェクトリーダーを育成する「ファシリテーション型リーダーシップコース」の講師を務める。著書に「博報堂のすごい打ち合わせ」（ソフトバンククリエイティブ）など。経営学修士（MBA）。法政大学大学院 博士後期課程在籍。多摩美術大学非常勤講師。

3月7日(日) / 10日(水) 13時~16時
「絵が苦手な方のための、伝わるラフスケッチ描き方教室」 記号 D

<プログラム概要>

教育の現場では、しばしば絵を使って物事を説明する場面に遭遇します。ビジュアルのもつ伝達力はユニバーサルで、うまく利用するととても便利です。しかしながら、皆が皆「簡単に早く」絵を描けるわけではありません。苦手だからといって、絵を描くという方法を使わないのはもったいない！ラフスケッチを多用する広告の現場で伝わる、ちょっとしたコツを演習を交えながら楽しく習得しましょう。

<講師>



遠藤 玲奈

株式会社博報堂
アートディレクター

株式会社博報堂 博報堂ブランド・イノベーションデザイン/アートディレクター 多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。広告会社でありながら、広告だけでなく、「アートディレクターだから出来るコンサルティング」に取り組み、商品開発、事業開発など「何をデザインするかをデザインする」スタイルを得意としている。広告コミュニケーションで鍛えた「生活者を自分に誘惑させる力」とアートディレクション力で、「人の心を動かす、大きい意味のデザイン」を目指す。国内外受賞多数。

3月17日(水) 13時~16時
「LGBTを知る~性同一性と性的指向の多様性~」 特別講座

<プログラム概要>

LGBTの人たちの心理や抱える問題を正しく学び、その人たちの視点に立つて考えることが教育現場においても強く求められています。これから教育者となる皆さんにとって、配慮すべき点やマイノリティであるがゆえに直面する壁を理解することは極めて重要です。レクチャーと当事者との対話を通じて、多様な人への対応スキル、正しい知識を学んでいきます。

<講師>



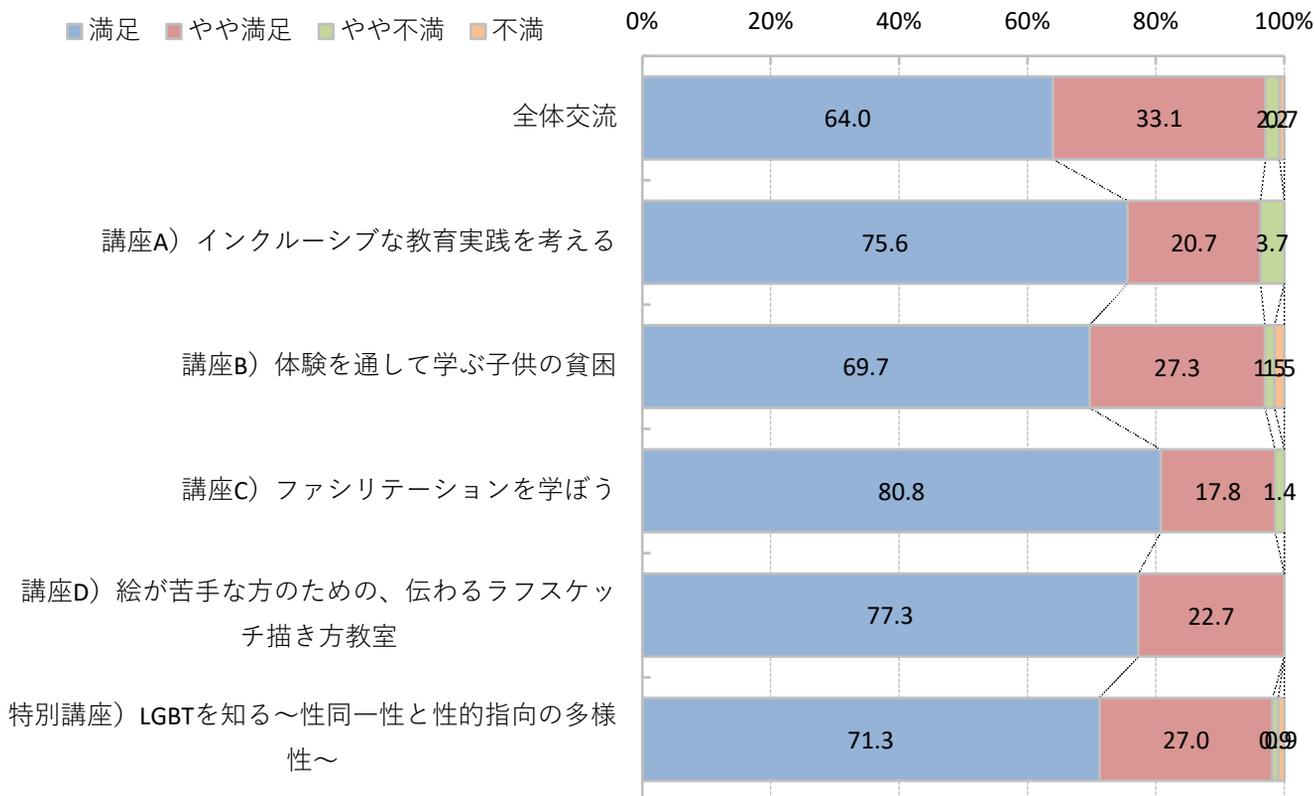
森永 貴彦

(株)LGBT総合研究所
代表取締役社長
（一社）LGBT理解推進会議理事

早稲田大学政治経済学部卒業後、大広入社。戦略プランナーとして活躍後、2016年に博報堂DYグループ内に㈱LGBT総合研究所を設立。性的マイノリティに向き合う企業をマーケティング視点でサポートし、ダイバーシティ社会の形成を実現していくことを目指す。昨今、LGBTに特化したマーケティングエージェンシーとして、国内でも傑出した成果をあげており、各種メディア取材やセミナーなどで多数の掲載、登壇をもつ。

【研修後の奨学生アンケート結果】

■ 今回の研修の各プログラムに、あなたはどの程度満足しましたか。



【研修で得た成果】

<新たな見識を得た・視野が広がった>

・教員になる上で必要なことを沢山学べた。大学では教わらない事や、実際の声を聞けると言うことはどの教科書読むより説得力があり、イメージもし安かったと感じる。また同時に、一人の人間、社会人として必要な知識も得ることが出来た。考えを交流させる中で自分自身を振り返る時間にもなって、ここからさらに色々なことを学んでいきたいと思えた。

【小学校/院】

・一般の企業や、社会の中で、学校と関係なく働いている方から様々な講義をしていただいて、すべてが自分の中で新しい学びでした。

【小学校/3年次】

・LGBTの研修がこれまで自分の中にあった教師像を壊してしまうほどに、学びと驚きの多い時間だった。(中略)私の不安というのは「教師は正しくなければならない」「教師は全てわかった上で子どもに教えなければいけない」という固定観念故に生じたものであることを痛感した。大切なのは、教員だからと肩肘張らず、1人の人間として「目の前の1人の人間に真摯に向き合うこと」であることが分かり、とても心が軽くなった。

【中高国語/4年次】

<モチベーションが上がった>

・モチベーションが上がりました。大学の友達にも思うように会えない中で、こういった研修に参加できたことで、全国の仲間と繋がれて、教職に対する意欲が高まったと感じます。

【小学校/3年次】

もっと視野を広げて、教員としてではなくて、人間として大きく豊かになろうと思うようになった。いろんな人と関わっていききたい。

【特支/3年次】

<他の奨学生との交流・刺激を受けた>

・他の奨学生の積極的かつ意欲的な発言に感化される機会が何度もありました。また、コロナ禍での過ごし方についても、できることを全力でやっている仲間の姿を知れて、私も頑張らなくてはいけなと感じました。

【中高国語/3年次】

・同じ夢を持ち、同じような考えを持っている仲間が新しく増えたこと。連絡をとるようになり、自分の将来に繋がる良い出会いだった。

【小学校/4年次】

【全体集合での奨学生の様子】



【全体集合での奨学生の様子】



※20年度はコロナ禍により参加が難しい状況でした。参考までに19年度の様子を掲載いたします。

【目的】

- ・「博報賞」「児童教育実践についての研究助成」等、当財団の他事業への参加し、優れた教育実践者や研究者の知見に触れ、交流を図る機会を提供する。

【奨学生の参加例】

- ・「博報教育フォーラム」への参加
- ・「博報日本語交流プログラム」の海外児童日本体験プログラムへのサポーター参加
- ・「児童教育実践についての研究助成」成果発表会・交流会への参加
- ・博報賞を受賞した先進的な取組を行う小学校への奨学生による取材
(横浜市立白幡小学校)

【参加時の奨学生の様子】



【目的】

- ・例年ですと地域ブロック毎に奨学生・卒業生の活動報告の場を作り交流を図っていますが、今年度はコロナ禍により、博報堂奨学生OBOG会主催でオンライン座談会を行いました。
- ・ヨコだけでなく、タテの交流促進も目的としています。

【実施概要】

・ 大学院生活座談会

日 時：2020年11月14日16：00～18：00

参加者：約50名参加

内 容：①パネリスト自己紹介 ②進学理由 ③1週間の過ごし方 ④授業内容
⑤進学してよかったこと ⑥教員採用試験体験談 ⑦講師経験談 ⑧質問タイム
⑨奨学生に伝えたいこと

・ 教育現場座談会

日 時：2021年1月16日18：00～20：00

参加者：約50名参加

内 容：①パネリスト自己紹介 ②普段の生活 ③イメージとのギャップ
④教員採用試験について ⑤質問タイム ⑥奨学生に伝えたいこと

【開催時の様子】



< 奨学生WEBマガジン >

【目的】

- ・奨学生及び卒業生の交流促進の一環として、奨学生及び卒業生の活動や近況を紹介するWEBマガジンを奨学生、卒業生、大学担当者様へ配信



(2020年度に配信したWEBマガジンの内容)

- ・新入奨学生紹介
- ・先輩奨学生からメッセージ
- ・こども研究所「子ども1週間しあわせ調査」
- ・大学院生活座談会
- ・教育現場座談会

(2021年度に配信したWEBマガジンの内容)

- ・卒業生のことば
- ・OBOGが本格始動
- ・オンライン留学体験記